

【第2分科会 豊かな人間性】

豊かな人間関係を育む教育課程づくり ～人権感覚の育成の視点から～

鈴木 敦 夫 (大石田町立大石田小学校)

1 はじめに

人間関係の複雑化や情報モラル等が今日的課題となっている中、子供たちが夢を持ち、豊かな人間関係を育みながら生活することができる学校づくりが校長に求められている。その実現のためには、多様性を受け容れながら他と共によりよく生きるための「人権感覚の育成」が必要である。そこで、「人権感覚の育成」に焦点を当て、教育課程づくりと校長のあり方について明らかにするために本実践に取り組んだ。

2 研究の方法

- (1) 豊かな人間関係につながる教育課程づくりと人権感覚育成についての意識調査により、実態を把握し考察する。
- (2) 効果的な実践例を共有し、各校での指導・実践に生かす。
- (3) 上記(1)(2)についての検討・協議を通じて、校長の在り方、役割等についてまとめ提言する。

3 研究の内容

(1) 実践に当たって共有したこと

- | |
|----------------------------------|
| ◇「人権感覚」 |
| ①自他の人権が擁護された状態を感知し、これをよしとする感覚 |
| ②自他の人権が侵害されている状態を感知しこれを許せないとする感覚 |

(2) 意識調査

- ①対象：地区小学校長・教頭・教務主任・担任
- ②内容：「豊かな関係づくり」のために重視している領域等、「人権感覚の育成」についての意識や人権教育の取り組みについて
- ③考察
 - ア 校長は体験活動と交流活動を中心に年間計画に基づいた確実な育成を目指している。
 - イ 担任の意識は「教科・道徳」に向いている。
 - ウ 「人権」は、あらゆる教育活動の基盤となる普遍的な価値である。

(3) 実践研究

実践整理の軸 A 「学校経営の明確化」

<成果>

- ・教師の指導姿勢が児童に反映。自尊感情や

人権感覚の高まり。

- ・認め合う学校風土やメンバーシップの醸成。

実践整理の軸 B 「学校運営の工夫」

- ① 組織づくり
- ② 「P・D・C・A」のシステムづくり
- ③ カリ・マネの周知と経営参画意識の向上

<成果>

- ・職員や児童の参画意識の高まり。
- ・「P・D」重視から「C・A」重視への転換。

実践整理の軸 C

「地域連携や教育資源の確保」

- ① コミュニティスクールによる多様で良質なかわりづくり
- ② 地域連携、小中連携による「社会に開かれた教育課程」の具現化

<成果>

- ・地域での居場所づくり。自己有用感の高まり。
- ・多様な人や考え方にかかわる場づくり。

4 成果(○)と課題(●)

- 意識調査から把握した実態と課題を改善するために、教育活動の意義やねらいについて職員で共有しながら実践を展開することができた。
- 3つの実践軸での経営改善を通して、校長の役割や指導について明らかにすることができた。
- 自他を大切にする学校運営が伝統的に行われてはいるが、「人権感覚の育成」の視点から教育活動を見直す意識の継続が必要である。

5 提言

豊かな人間関係を育む教育課程の実現のために次の3点を提言する。

- (1) 「人権感覚」を意識した教育課程づくりと教育実践に全職員の意識を揃えて取り組むこと。
- (2) 学校経営具現化のため、職の特性や違いによる意識の差を十分に把握した上で、経営方針の周知、組織づくり、「P・D・C・A」のシステムづくりを行うこと。
- (3) 学校を支える地域や保護者が「豊かな人間関係づくり」や「人権感覚の育成」を意識し学校や児童と関わる協働的な体制作りと実践を行うこと。